

〔図説〕 松本歯学 30 : 54~55, 2004

key words : 3DX<sup>®</sup>—根管長測定—口内法 X 線写真

## 歯科用小照射野 X 線 CT (3DX<sup>®</sup>) 画像診断： 3DX<sup>®</sup>を使用した根管長測定の 1 例

趙 満琳<sup>1</sup>, 内田 啓一<sup>3</sup>, 音琴 淳一<sup>2</sup>, 新井 嘉則<sup>3</sup>,  
塩島 勝<sup>3</sup>, 宮沢 裕夫<sup>1</sup>

<sup>1</sup>松本歯科大学 小児歯科学講座

<sup>2</sup>松本歯科大学 歯科保存学第一講座

<sup>3</sup>松本歯科大学 歯科放射線学講座

Diagnostic imaging by limited cone beam CT (3DX<sup>®</sup>):  
A case report of root canal length measurement

MANRI CHO<sup>1</sup>, KEIICHI UCHIDA<sup>3</sup>, JUN-ICH OTOGOTO<sup>2</sup>, YOSHINORI ARAI<sup>3</sup>,  
MASARU SHIOJIMA<sup>3</sup> and HIROO MIYAZAWA<sup>1</sup>

<sup>1</sup>Department of Pediatric Dentistry, Matsumoto Dental University School of Dentistry

<sup>2</sup>Department of Periodontology, Matsumoto Dental University School of Dentistry

<sup>3</sup>Department of Oral Radiology, Matsumoto Dental University School of Dentistry

根管長測定の画像検査は口内法 X 線撮影法で行ってきたが、とくに二等分法撮影では、像の歪があり正確な測定は行えなかった。

今回、リーマー試適による実測値と歯科用小照射野 X 線 CT (株モリタ製作所、京都、以下 3DX<sup>®</sup>とする) で計測した値とを比較したので、その画像を供覧し報告する。

患者は54歳、女性、本学歯周病科に受診中の患者であり、下顎左右側前歯部の根尖部の位置を確認するために、2002年6月21日、口内法 X 撮影と撮影依頼の担当医が患者の承諾を得て 3DX 検査を行った。

左右下顎中切歯に#20のリーマーを試適し口内法 X 線写真を行った(写真1)。根尖部までリーマーは達している。周囲歯槽骨に根長3分の2の吸収を認める。3DX<sup>®</sup>画像による根管長測定では(写真2)、下顎左側中切歯の根長は17.58 mm、

下顎右側中切歯の根長は19.12 mmであった。左右下顎中切歯に#25のリーマーの実測値を精密ノギスにて計測した。その結果は左側下顎中切歯では17.56 mm、であり、下顎右側中切歯は19.11

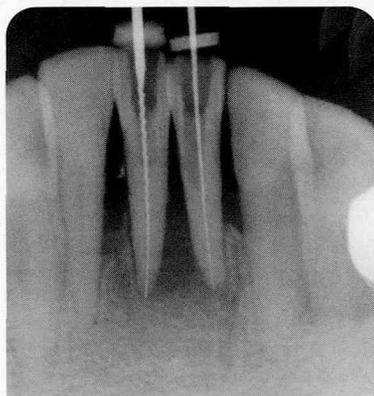
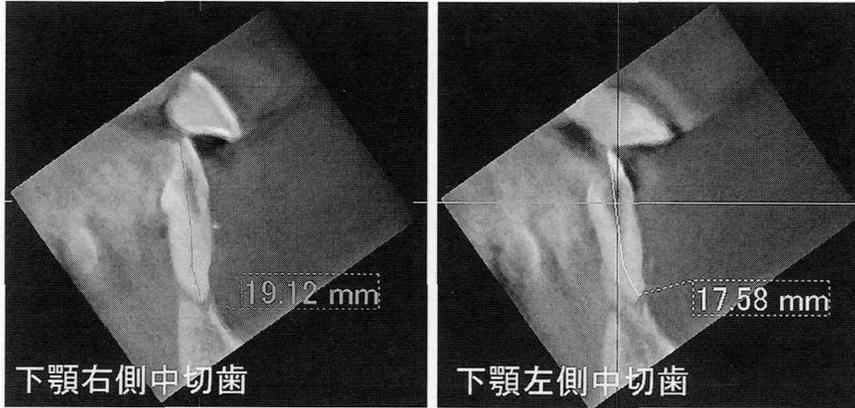


写真1 : リーマー試適時の口内法 X 線写真

写真2：3DX<sup>®</sup>画像による根管長測定

mm であり、3DX<sup>®</sup>と比較してほぼ同じ値であった。

現時点では検査症例数も少ないが、根管長測定は口内法X線写真やパノラマX線写真に比較して正確に行えることができた。とくに画像構成を任意に変えることができ、本症例のように根尖孔

が唇側方向に位置している場合は、口内法X線写真ではその観察は困難である。3DX<sup>®</sup>では歯の横断面から観察することもでき、根管長測定においてその補助的診断として有用性は高いものと思われた。